

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/3/31	2021/4/16	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	29,178.80	29,683.37	30,714.52	2021/2/16	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	32,981.55	34,200.67	34,256.75	2021/4/16	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	110.72	108.80	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 米株式市場の上昇が株価の上昇要因となった一方、新型コロナウイルス感染再拡大への懸念などが上値を抑え、ほぼ横ばい ~

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲84.69円(▲0.28%)、TOPIXが+1.40ポイント(+0.07%)となり、米株式市場の上昇が株価の上昇要因となった一方、新型コロナウイルス感染再拡大への懸念などが上値を抑え、ほぼ横ばいとなりました。業種別(東証33業種)でみると、鉄鋼、鉱業、保険業などの19業種が上昇した一方、海運業、電気・ガス業、金属製品などの14業種が下落しました。

週初12日は、米長期金利が低下傾向にあることを背景に先々週末のNYダウが過去最高値を更新した流れを引き継いで上昇して始まった後、利益確定売りの動きに押されて下落しました。その後も、①13日に発表された3月の中国貿易収支で中国内需の強さが確認されたことや、②インフレが高進してもFRB(米連邦準備理事会)が緩和的な金融政策を維持するとの見方が広がる中、米CPI(消費者物価指数)等の米主要経済指標が市場予想を上回る内容となったにも関わらず米長期金利が低下傾向にあることが好感され、S&P500は13日と15日に最高値を更新、NYダウは15日に初の3万4,000ドル台を付けるなどしたことが上昇要因となった一方、変異ウイルスを含む新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒感や1-3月期決算発表を控えた様子見姿勢などが上値を抑えて一進一退の展開となり、週末16日は先々週末比でほぼ横ばいとなりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
4月19日	Mon	日本	貿易収支	3月	+2,159億ドル
4月20日	Tue	日本	第3次産業活動指数(前月比)	2月	▲1.7%
4月22日	Thu	日本	内閣府、月例経済報告	4月	
		欧州	ECB(欧州中央銀行)政策理事会		
		米国	ユーロ圏消費者信頼感指数	4月	▲10.8
		米国	中古住宅販売件数	3月	6,220千件
4月23日	Fri	日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	3月	▲0.4%
		欧州	ユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)	4月	+62.5
		米国	ユーロ圏サービス業PMI	4月	+49.6
		米国	新築住宅販売件数	3月	775千件

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	4/22 オービック、テイコ、中外製薬、日本電産 4/23 エムスリー
	海外	決算発表 :	4/19 IBM、コカ・コーラ 4/20 ジョンソン・アンド・ジョンソン、ネットアックス、プロクター・アンド・ギャンブル、ロッキード・マーチン 4/21 ベライゾン・コミュニケーションズ、SAP、ASMLホールディング 4/22 AT&T、ダウ、インテル、スナップ、シグマ・テック/ロジック、ハイオン、フラックストーン・グループ、クレディ・スイス・グループ、ホルボ 4/23 アマリオン・エクスプレス、タイムラー

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 主要企業の1-3月期決算発表を前に様子見姿勢が強まり、横ばい圏で一進一退 ~

今週の日本株市場は、主要企業の1-3月期決算発表を前に様子見姿勢が強まり、横ばい圏で一進一退になると予想しています。新型コロナウイルスを巡り、大阪府知事が政府に緊急事態宣言を要請する意向を表明し、東京都知事も週内の要請を検討しているとするなど、足元で感染拡大傾向が強まっていることは株価の重しに働くとみられています。一方、週末に菅首相が米ファイザー社の最高経営責任者(CEO)と電話協議した結果、9月末までに全接種対象者分のワクチン供給の目途がたったと表明したことは、将来的な経済活動正常化への期待に繋がり、一定の下支え要因に働くと考えます。先週発表の米金融大手などの1-3月期決算発表は、事前予想を上回る内容となりましたが、今週は大手製造業やハイテク企業などの決算発表が予定されており、来週以降本格化する国内企業の決算内容を占う上での注目材料と考えています。国内企業の決算に対して、コロナ禍からの反動による業績改善を織り込む一方、21年度会社計画は慎重なものになるとの見方が広がっていることから、当面はこれらの見方を確認する様子見姿勢が強まると考えています。

その他の注目材料として、日本では19日の貿易収支、23日のCPI、米国では22日の中古住宅販売件数、23日新築住宅販売件数、欧州では22日のECB政策理事会、23日のユーロ圏製造業/サービス業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。